

山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 坂根 勲
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



開かれた寺を めざして

山陰教区門徒総代会

副会長 上田正吉

今年も穏やかな元旦に恵まれ、御正忌に始まるお寺の諸行事が幸先よくスタートを切りました。

さて、近年の少子高齢化に伴い人口が減少し、今後の護持に課題が山積しています。その対策を模索するべく、今年度の組の総代会のテーマを「開かれた寺」としました。

浄土真宗は、「念仏と聴聞」が本来であるため、いかに多くの門信徒の皆様にお寺へ足を運んでいただくということが課題です。旧温泉津組では、報恩講にスタンプリヤーを実施し、六ヶ寺以上お参りしようと呼びかけ、該当者を表彰し記念品を贈呈したところ年々お参りも多くなってきました。「聴聞」は聴と聞であり、ただ一方的に聴くだけでなく、お互いの疑問も問い、語り合うような話し合い法座も必要かと思えます。

住職と各教化団体が一体となり、開かれたお寺をめざす為に総代の自覚と役割が益々問われています。

生活の中のお寺

大田中組門徒総代会会長
大田中組浄福寺門徒総代
門徒 推進員

松下

誠

今年も一月九日から十六日まで本山では宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講がお勤めされました。御門主は、ご親教(法話)の中で「親鸞聖人が九十年のご生涯をかけて浄土真宗を立教開宗され伝えてくださったためであつた」と味わうことができれば誠に素晴らしいことです。」とのべられました。

私は幼いときから父母に連れられてお寺参りをしていました。母に「おとなしゅう(静かに)しとれよ。」と云われたことを何となく又懐かしく思い出すことがあります。

法座が営まれるたび、参詣者が多くて歩き回ることなどできなかつた本堂が子供の声も聞こえなくなり何となく寂しい感じとなっている昨今。それでもお寺は私にとって「そつとつながりホッとできる」唯一の場所とお育てをいただいています。

お同行である友人や知人に、今度の法座にご一緒しましょうとお誘いをするのは、私にとつて当たり前前であつても、「いや、まだ寺参りをする歳じゃない。」とか「寺は何となく敷居が高くて遠慮

だ。自分が参つたら何か云われるんじゃないか。」というような応えが返ってきます。

寺参りは年齢制限のないこと、阿弥陀如来のみ教えをいただくのは、多分誰もが承知していることだと思つていますが、一方で往生浄土の道は生涯を終えてからのことだと誤解をしている人があまりにも多いのではないかと感じています。

なぜこのようになってしまったのか。社会環境、生活環境が変わつたにも拘わらず人の思いは変わつてはいないと感じるのは私だけでしょうか。

お寺が門信徒自身の聴聞の道場であり私の生き様生き方を映す場所であることを子や孫に伝えることを、怠つたことだろうと自戒を込めて思わざるを得ません。

日常生活の中で、お寺は私のために、私の心よりどころであり私の生きざまと向かい合うところとの思いで御同朋と歩み、寺参りを重ねることでお寺の敷居は取り外され、もつともつと身近な存在となります。

『お寺は、私達みんなのもの…』

浜田組 植野 修行

「お父さん、ヨッチャンはここに」と目に涙を浮かべ妻が言った言葉が忘れられない。それは私達の一人息子が二十才の時、交通事故に遭い急逝してしばらくの後、本願寺御影堂でおのずと出たひとことだった。ふところの子が突然いなくなり、途方に暮れる母親が心の拠り所を見つけた一瞬だったように思う。その時から私とお寺との関わりがより深くなつた。父が寺の役員を勤めさせて頂いた事もあり私は仕事にかまけて親任せであつた事は否めない。普段、仏教徒である事は分かつていても若い時の私同様にお寺との関係は遠いものと数多くの人が思つているようだ。しかし身内の不幸に接し諸行事を体験してその大切さに気付く。そしてそれは若い人達にとつては尚更のことだ。

数年前から総代を努めさせて頂いて認識不足、力不足の中、日々勉強させて貰っている。思えば門徒の方々の多くは「お寺」が自分達のものという意識が薄く、「あれは坊さんのもの、時々寄付をさせられる所」などと思われている風潮が感じられる寂しく思っている処である。そもそもお寺は門徒が力を合わせて建立し護持されてきた「聞法の道場」であり多くの先輩達が交流を続けてきた場所である。急激に世の中が変つて来た現在、都会では葬儀をしない、

いわゆる「直葬」が急速に増えてきていることを聞くにつけ「お寺と門徒」の関係の修復(?)に今こそ力を注ぐ必要があると思う。ではどうすればこれを少しでも改善出来るだろうか。私自身、子供の頃夏休みにお寺に泊つて友達と楽しく遊んだ時に教えられた恩徳讃(旧)を五十才になった時にも覚えていた事を思うと幼少の頃よりお寺が心の中に身近に残る「キッズサンガ」の事業を、少々時を必要とするが力強く推進する事が肝要ではないだろうか。働きざかりの若い人達にお詣りを勧めても現実問題、色々な事業があり、難しいこともあるだろう。しかし、私達がその事をわきまえたうえで、住職はもとより総代、仏教壮年会、仏教婦人会などの協力のもと、ややもすれば格式ばり、又かしこまつた雰囲気を持たし、門徒の方々が「お寺」の憩いの場」と感じて貰えるようなムード作りをしていけばお寺は近いものと感じるのではないだろうか。月三回発行の本願寺新報を見ても各寺院で落語やライブなどの行事を行う所が増えている。それは馴染み深い寺を目指す活動であろう。

言うは易く行ふは難し。なれど私達は立ち止まる事なく、阿弥陀様の「法」のもとに集い、門信徒である一人ひとりがそれぞれのお寺の立派な一員であることを自覚して頂けるよう努めていく事が大切であると思う。

二〇一三(平成二十四)年度

門徒総代研修会報告

本年度も、山陰教区門徒総代研修会を三地区(鳥取・出雲・石見)で開催しました。

鳥取ブロックは鳥取因幡組光輪寺さまを会場として六十名のご参加、出雲ブロックは出雲市民会館を会場として百名のご参加、石見ブロックは浜田組覚永寺さまを会場として八十五名のご参加。合計二百四十五名の皆さまのご参加をいただきました。

各ブロックとも、ご講師は単田真生師(松江組真行寺住職)。テーマは「寺院と総代」。ご自身のご経験に基づき、お話しをいただきました。

講義後の分科会では活発な意見交換が行われ、全体会で発表されました。

全体会の中で、「全体会での発表を、参加できなかった方にフィードバックして欲しい。」というご要望がありました。

そこで、全体会で発表された事例、ご意見などを抜粋し、順不同でここに掲載させていただきます。

貴重なご意見、事例のご紹介をいただき、ありがとうございます。ご参加いただいた皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。

開かれたお寺を目指し、若い住職が中心となってイベントを開催している。

イベントに参加することで、お寺が身近になる。そういった活動の結果、参拝者が増えた。

駐車場の問題を抱えていたが、駐車場を整備したらお参りが増えた。

教化団体の活動が活発な寺院は、法要行事も活性化している。

法要の後、質問やディスカッションの時間を設けている。

寺報ではなく、広報という形で、門徒から記事を募る。

お寺の行事に出席の少ない総代もいる。高齢化、世襲制の影響もあるが、きちんと役割を果たすべき。

お寺は次世代を担う人を育てる場。小さい時からのお寺参り、次代を担う人が育つのではないかと。お寺にお参りする姿を子や孫に見せる。自然にお参りが増えるのではないかと。お寺の運営に必要なのは危機管理能力。

なく言ってもらいたい。総代もわからないことがあればはつきり聞く。

再び参りたくなる法座であって欲しい。

仕事があるからお参りがなかなかできないという人がいる。そこをお参りしてもらうには僧侶の協力が必要。

法座を年に十二回行っているお寺もある。

参拝者の減少。若い人は年配の方の担当と思っている。

参拝を増やすための方法として、送迎バス、お茶、ゴルフ、スタンプラリーなどの工夫をしている。

総代は門徒の代表として、お寺の発展に寄与すべき。

地区役員に必ず若い人を入れている。

法座を毎月している寺では、おとぎが大半なので、六―七人専属の人を付けている。弁当を頼んだ方が良いという声もあったが、大事な食文化を守りたいという思いから続けている。

法話は、時代にあつた切り口でお願いしたい。

お寺は大事な場所であることを家庭で話し、次の代に受け継いでいくことが大切。



分科会の様子



講演(単田真生師)

2012(平成24)年山陰教区門徒総代会 会計歳計予算

歳入の部

款	項	費目	24年度予算額	23年度予算額	対比	説明
1		会費	840,000	858,000	△18,000	
	1	当年度会費	804,000	822,000	△18,000	1ヶ寺2,000円×402ヶ寺分
	2	前年度未収金	36,000	36,000	0	22年度未収金
2		研修会参加費	345,000	345,000	0	
	1	研修会参加費	345,000	345,000	0	1ヶ寺1,500円×230名
3		助成金	210,000	260,000	△50,000	
	1	助成金	210,000	260,000	△50,000	本山・教区助成金
4		雑収入	2,196	2,533	△337	
	1	雑収入	2,196	2,533	△337	
5		繰越金	122,804	354,467	△231,663	
	1	前年度繰越金	122,804	354,467	△231,663	
		合計	1,520,000	1,820,000	△300,000	

歳出の部

款	項	費目	24年度予算額	23年度予算額	対比	説明
1		事業費	655,000	710,000	△55,000	
	1	研修費	600,000	650,000	△50,000	開催経費(3地区)
	2	会報印刷費	55,000	60,000	△5,000	「門徒総代会だより」印刷
2		会議費	230,000	280,000	△50,000	
	1	理事会費	150,000	180,000	△30,000	監査・理事会開催経費
	2	常任理事会費	80,000	100,000	△20,000	2回
3		教化助成費	400,000	520,000	△120,000	
	1	教化助成費	400,000	520,000	△120,000	20,000円×20組
4		組織強化費	30,000	30,000	0	
	1	組織強化費	30,000	30,000	0	本山負担金等
5		事務費	85,000	75,000	10,000	
	1	通信・印刷費	80,000	70,000	10,000	郵券料
	2	諸費	5,000	5,000	0	事務消耗品等
6		雑費	5,000	5,000	0	
	1	雑費	5,000	5,000	0	
7		連絡協議会費	40,000	80,000	△40,000	
	1	連絡協議会費	40,000	80,000	△40,000	中四国連絡協議会派遣経費
8		予備費	75,000	120,000	△45,000	
	1	予備費	75,000	120,000	△45,000	
		合計	1,520,000	1,820,000	△300,000	

編集後記

皆さまにおかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申しあげます。「門徒総代会だより」第三号を発刊する運びとなりました。今号は、「開かれたお寺」をテーマに、組の代表の方にご寄稿いただきました。

また、総代研修会での「フィードバックを」という声にお応えし、研修会で出された意見や事例を掲載いたしました。

ご住職さまにおかれましては、この「門徒総代会だより」を自坊の総代の皆さまにお渡しいただき、情報や課題の共有をいただければと思います。

